



【蝸管蓄音機】

工藤氏の風俗画には、当時の人が細かく描かれていると同時に当時使われていた道具類も数多く描かれています。

蓄音器や電話機などの新しい道具は、人々に驚きを与えた一方、古い道具も同時に使われていました。

時は移り変わり現代となり、大分市も大きく変わりましたが、市内には今でもノスタルジックな印象を与えてくれる建物が残り、当時の面影をしのばせてくれます。



【立体メガネ】



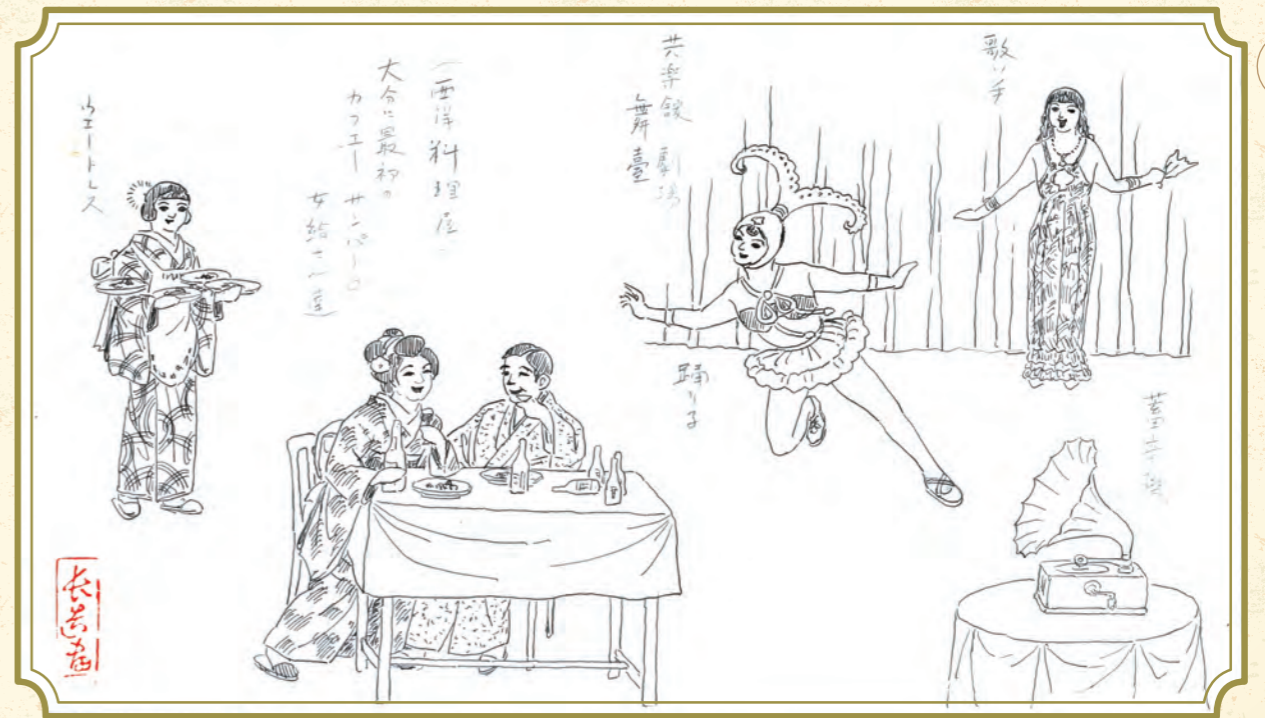
【電話機】



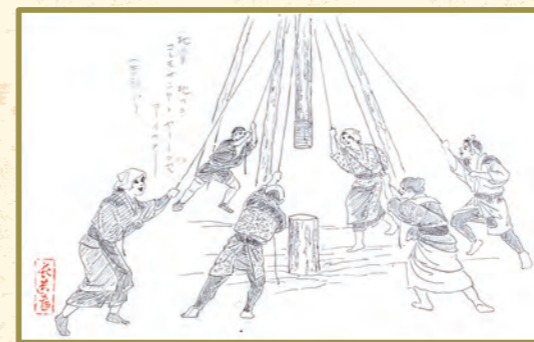
【壁掛け時計】



【バリカン】



カフェサンパウロと共楽館



地つき (地業)



チンドン屋

オオイタ・モダン

令和7年青春テーマ展示

発行 大分市歴史資料館 〒870-0864 大分市大字国分960-1 TEL:097-549-0880 FAX:097-549-5766

【開館時間】入館は16:30まで 【休館日】※ただし祝日の場合は開館 9:00-17:00 【月曜日(第1月曜を除く) 第1火曜日 祝日の翌日 12/28-1/4】 【観覧料】※団体は20名以上 大人210円(団体150円) 高校生100円(団体50円) 中学生以下無料

※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその介護者1名は無料。◎入館時に受付で手帳を提示してください。 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定を変更する場合がございます。

発行日：令和7年3月1日

会期 令和7年3月1日[土] ▶ 5月25日[日]



モダンイタ

令和7年青々テーマ展示

1854（嘉永7）年の開国から明治維新をへて、日本に西洋の文化が入ってきました。都市部では、生活が大きく変化しましたが、農村部では昔と変わらない生活を送っていました。明治から大正、昭和にかけては、西洋の文化と日本の文化の融合が進みましたが、まだ古き良き日本の文化や風習が残っていた時代でもあり、今の私たちにはノスタルジックな印象を与えてくれます。

今回の展示では、近代の大分市の風景や市民の生活を描いた風俗画を展示し、当時の様子や暮らしについて紹介します。

第二章 『変わりゆくオオイタ』

工藤氏は、当時の街中を非常にていねいに描写しています。1911（明治44）年に大分市制が始まった際に仮装行列を楽しむ人々、トキハ近くにあったカフェサンパウロで働くウェイトレスと女中などが描かれています。また、仏崎公園の絵にはネクタイを締めた男性、白木海水浴場を描いた絵には水着を着用している人々が描かれています。大分市内を描いた風俗画からは、発展する大分が垣間見えるようです。



仏崎公園のお花見

第一章 『オオイタを描いた絵師』

今回展示する風俗画を描いた絵師工藤長造氏は、大分市街地で看板屋を営まれていた方でした。工藤氏が太平洋戦争後に、記憶を頼りに描いた風俗画は、明治・大正の人々の暮らしや営みを、私たちに伝えてくれます。

工藤氏の風俗画には、農村の様子や萩原の塩田、大分川での漁の様子など伝統的な暮らしや営みが描かれています。当時の人々はどうのような生活をしていたのでしょうか。



住吉神社の夏祭り



農家の庭先・越中富山の入れ葉



大分市誕生を祝う仮装行列



高松・萩原・日岡の塩田



大分川の立て網・大洲の貝掘り



演歌師



白木海水浴場